



# Weekly Report

## 小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階
- ◆会長 / 橋詰 希望 ◆副会長 / 前田 博志
- ◆幹事 / 黒澤 明男 ◆クラブ広報・情報委員長 / 新井 粒太



2018~2019 年度  
国際ロータリーのテーマ

NO. 1421 平成30年7月24日

◆点鐘	橋詰 希望 会長
◆SAA	加藤 輝男 委員長
◆ソング	我等の生業
◆ゲスト	山岸 喜昭様(長野県議会議員) 小池 芳子様(元R財団国際親善奨学生)

### 【会長挨拶】 橋詰 希望 会長

先週に続き猛暑の話ですが、昨日熊谷で気温41度1分となり、観測史上国内で最高気温を記録しました。お年寄りが自宅で亡くなるという悲しい出来事が各地で起こっています。これも災害だと言われています。

2年後の東京オリンピックはこの暑さでどうなるでしょう。とても心配です。

一方御嶽海の優勝はとてもうれしかったです。横綱3人と先場所優勝した栃ノ心が休場するという強い相手がいなくなるというラッキーがありました。これも御嶽岳の運が強いと言えると思います。昨日の信濃毎日新聞はいつもの新聞をカバーするように一面に御嶽海の特集がありました。長野県で初めての優勝力士となりましたが、相撲好きでよく観戦に行きテレビにも映っていた元会員の島田哲夫さんが生きていればどんなに喜んだことでしょう。北村横綱審議委員長は、3人の横綱は自覚が足りずふがいない、御嶽海はスピードがあつてよかったとほめていました。

さらに佐久長聖が優勝し甲子園に2年ぶりに出場します。小諸も頑張ったし、小諸商業はもしかしてという期待もありました、上田西も含め東信地区のレベルが高くなったと思います。

ゲストとして財団元奨学生でソプラノ歌手の小池芳子さんがリサイタルの案内で来てくれました。ご活躍を応援していきたいと思ひます。

また今日の卓話を、山岸喜昭県議会議員さんをお願いいたしました。大変お忙しい中来ていただきました。どうかよろしくお願ひいたします。

### 【幹事報告】 黒澤 明男 幹事

1. クラブ計画書  
佐久コスモス、上田六文銭RC
2. 例会変更  
蓼科RC 8月8日(水) 定刻受付なし
3. (株)アイクより小諸新聞
4. 週報  
佐久コスモス、上田六文銭RC

#### 【本日の配布物】

週報 1420号、理事会報告、2018~2019年度予算書

### ◆出席報告 黒田 説成 委員長

会員数21名	出席義務者21名	免除者0名
本日	出席 14名	
	事前 MU 2名	66.67%
前々回(7/10)	MU 0名	76.19%

### ◆委員会報告

- 小池 芳子様
- ・リサイタルのお知らせ

### ◆ラッキー賞

NO. 13 黒田 説成 君

### ◆ニコBOX 朝倉 俊次 委員

山岸 喜昭様	今日は卓話の時間をいただきましてありがとうございます。
橋詰 希望君	山岸県議、本日卓話ありがとうございます。小池芳子さんご活躍を祈っています。
黒澤 明男君	酷暑です。体調管理に努めましょう。
小池平一郎君	山岸さん、小池芳子さんようこそ！！土曜日、京都にりましたが大変暑うございました。
黒田 説成君	山岸さんラッキー賞ありがとうございます。

## 【本日のプログラム】 「県政報告」 長野県議会議員 山岸 喜昭 様



本日は、小諸浅間 RC での卓話の機会をいただきまして誠にありがとうございます。  
また、連日、異常気象ともいわれる猛暑の中、職業奉仕に活躍されておりますことに、心から感謝申し上げます。  
先ず、全国各地で大雨により、多くの人命が奪われ、貴重な財産を失い、甚大な被害に遭われた地域の皆さんにお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復興を願うばかりであります。

さて、県議会におきましては、今年度の常任委員会では、総務、企画、警察委員会を拝命しました。県行政の総合的な企画・地域振興・財政状況・犯罪・交通事故防止・少年非行防止・特殊詐欺などの調査や、議案等の調査をします。所属会派は信州・新風・みらいで、所属議員は14名で第2会派であります。会派内では、副代表・政務調査会長で政務活動や現地調査・県政対話集会など調整・企画を担当しています。

新たな取り組みであります、長野県総合5ヵ年計画「学びと自治の力で拓く新時代」についてお話したいと思います。今、長野県を取り巻く環境は、急速、かつ大きく変わりつつあります。長野県の最重要課題は、少子化と人口の減少であります。人口が減り、若い人たちが大学進学と共に、東京に行って東京で大学生活を過ごした後、就職する時も東京の会社。地元に戻ってこない。そういった現象が、日本全国どこでも起きています。

そんな中、地域の経済の活性と、浅間山麓連携を進め、信州のように、日本全国の中でも、信州と言えば高原、温泉、信州と言えばレジャー、行ってみたい、住んでみたい県 NO1、こういう特別なところであり、より魅力的な県づくりを進めている所であります。若い人達も、あらゆる世代も、東京に行かなければ、楽しい人生は送られない。そういうのでなくて、信州は信州で、魅力ある地としてこれからどうやって発展させるか？ どういう県づくりをやっていくか？ という事なんでありませう。

そんな中で、皆さんと話をしているよく耳にするのは、若い人がいなくなってどうしよう、どうしよう、という声。でも、そろそろ発想を変えていかなくてははいけません。私は、そういったことを前提にした上で、人口が減る中で次の世代に、信州の豊かさや活力を、どうやったら引き渡すことができるのか？ という県づくりをやるべきじゃないでしょうか。そういう県づくりをやるのが、これからの私たちの世代の役目だと思っています。

長野県の人口は、2000年をピークに減少に転じており、県内総人口は、206万5千人、と1年間で1万2千人減少しています。高齢化率は、65歳以上の割合は31.4%で、過去においては、最高を更新しています。小諸市におきましては、(4月1日現在)41,693人で、高齢化率が32.4%となっております。長野県内総人口は、30年後は161万人まで減少するといわれています。急激な人口減少と、少子高齢化、東京など首都圏への人口一極集中が進む一方、地方の人口減は進むばかり。このような中で、地方の産業や地域の活力を維持していくためには、人口減少に歯止めをかけなくてはなりません。子育て支援や、結婚支援といった取り組みはもとより、Uターンや移住の促進など、人口減少を防ぐ施策にも、積極的に取り組むことが必要です。「人生100年の時代」を迎えています。長野県は、女性も男性も日本では、トップクラスの長寿県です。県内の100歳以上の高齢者は、現在1,700人以上で毎年増えています。私たちは、こうした長寿社会を前提にした生き方、暮らし方や、社会の仕組みを考えていかなくてはなりません。長野県は、全国では12年連続で、移住希望ナンバー1の県であります。様々なライフスタイルを求めて、移住して来られる方がたくさんいます。年を重ねても活躍できる「人生二毛作社会」の実現など、人生100年時代にふさわしい、新たなライフスタイルを長野県から想像して、発信していくことです。

このように、我々の取り巻く環境が変化する中、県民が将来にわたって、しあわせに暮らし続けられるよう、新しい時代にふさわしい、社会の仕組みを創造していかなければなりません。このようなことから、県民の夢や、希望をもって暮らせる社会を実現するための、ビジョンを描くべく、新たな総合5ヵ年計画を策定しました。10年・20年先の長野県の姿を展望しながら、基本目標であります「確かな暮らしが営まれる美しい信州」を目指し、今後の、5年間の総合計画として「しあわせ信州創造プラン2.0」～学びと自治の力で拓く新時代～を策定し、スタートしたところであります。

「学びと自治の力」を政策推進のエンジンとして位置づけました。学びは、それぞれ個人の生きがいや、しあわせ実現につながるものです。学びこそが社会の原動力となります。人口減少や技術革新が急速に進み、時代が大きく転換しつつある今日、心の豊かさや、安心な社会を創造していくためには、改めて「学び」に焦点を与えることが必要であります。

明治初期の就学率が、全国で最も高く、近代教育をけん引してきた本県だからこそ、新しい学びの創造を通じ、時代を切り開いていきたいと考えています。学びの場を作り、子供から大人まですべての県民が、主体的に学び、それぞれ持っている能力を、社会の中で十分に発揮していく事ができる「生きる力を学ぶ県」「子供から大人まで、学びを大切にする県」「主体的で能動的な学びの環境がある県」「あらゆる政策の基本に学びを位置づける県」このような「学びの県づくり」を進めていきます。

また、自治の力は、価値観が多様化する社会にあって「確かな暮らし」を実現するためには、自治の充実が不可欠です。特に、地域が多彩な文化や、産業を育みながら、発展してきた本県において、県民のしあわせを実現していく為には、地域住民が力を合わせた活動や、地域における独自の取り組みが必要です。自治の取り組みが、今後、さらに活性化するように、積極的な支援や協働を行うと共に、県も自治体として地域の実情や特色を踏まえた、主体的な取り組みを、積極的に推進していかなければなりません。このような「学びと自治の力」を政策推進のエンジンとして、時代をけん引するあたらしい価値観や生き方、暮らし方を長野県から創造していく施策です。

最近小諸も新聞紙上に取り上げられるページが増えてきたように感じます。市の取り組み、PR 動画や、コンパクトシティを目指す、複合施設など、新たな街づくりの形、また若者の活躍の場として、小諸高校の音楽科、小諸商業の地域への参加、両校の高校野球やレスリングなど、スポーツ選手の話、活躍が大きく報道されており、大変うれしく思っています。

さて、市民の皆さんの、負託を受けまして長野県政に携わりまして8年目を迎えました。県議会議員として、県民の皆さんと手を携えて、また、小諸市民と共に、人生100年時代における、未来に向けた県づくりに挑戦できることに、大きな喜びと誇りを感じています。これまでの間、県議として一生懸命に取り組んできたことができたことは、ひとえに、小諸市民の皆さんからの力強く、温かなご支援、御指導のお陰であり心から感謝申し上げます。

これからも、市民の皆さんの思いに寄り添いながら、感謝の気持ちを忘れずに、県政に取り組んでいきたいと思っております。  
2期目の取り組みについて 4年前に発行しました資料

1. 市にパスポート取扱所設置
2. 農大改修
3. 小諸高校音楽家の活躍の場、ウィーンへの音楽交流
4. 浅間山麓観光・産業振興の連携 講師に太田副知事、中島副知事
5. 県とのパイプ役 市との連携
6. 佐久建設事務所

今、地域の課題、小諸の今後の取り組みとしまして

1. 高校編成モデル地区 2. サテライトキャンパス誘致 3. 佐久平アクセス道路新設整備 4. 子供の貧困対策  
同時に、その先にある県づくりを考えながら、人口が減る中で、持続可能性がある医療、介護、年金、子育ての生活の在り方をどうするのか？そして地域の活力が、世代間で継承することができて、自分たちが、自分たちの地元で誇りを持ちながら生活ができるか？そんな長野県の構造を、どうやったら作れるのかなど、試行錯誤しながら、また悩みながら皆さんと共に、新しい県づくりをしていかなければなりません。今後ともどうぞ、よろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。県政報告といたします。

知事選が始まりました。私は、阿部知事に大いに期待しているところであります。過日、阿部知事も3選を目指し、決意をしたところであります。更なる長野県の発展のために、御尽力を期待するところであります。御存じのように阿部候補は、小諸の住民であります。小諸の市民がしっかりと支えて、これからも県政をとっていただきたい。私も議員として、知事とも両輪で県政に取り組んでおります。県政の安定が県民の安心安全を作ります。

どうぞ、皆さん阿部守一候補をよろしく願いいたします。また皆さんのお力を阿部知事に貸していただき、引き続き、長野県政のかじ取りをしていただきますよう、心からお願い申し上げます。皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

次週のプログラム:7月31日 「自己小伝」 両川 博之 会員

次々週のプログラム:8月 7日 「納涼家族夜間例会」 クラブ運営委員会